

会 議 録

会議の名称	第 8 回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和 6 年 1 月 24 日(水) 19:00～21:30	開催場所	市役所第 2 別館大会議室
出席者	<p>1. 委員 須川委員、田北委員、長津委員、簗原委員、柴田委員、森委員、鳥部委員、関岡委員</p> <p>2. 執行機関(事務局) 吉岡文化振興課長、藏菌文化振興課文化振興担当係長、神代文化振興課文化振興担当主査</p> <p>3. その他 株式会社地域計画建築研究所(コンサルタント) 2 名</p>		
配布資料	<p>・資料1 文化芸術推進計画(案)</p> <p>・資料2 今後のスケジュール</p> <p>・補足資料 修正箇所一覧</p>		
公開区分	<p>開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由:情報公開条例第 9 条第 2 号に該当)</p>		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 第 7 回審議会の振り返り (株式会社地域計画建築研究所より説明)</p> <p>[会 長]: 何かご意見等あればお願いしたい。</p> <p>[各委員]: 意見なし。</p> <p>[会 長]: 特に無いようであれば、那珂川市文化芸術推進計画に移りたい。</p> <p>2. 那珂川市文化芸術推進計画について</p> <p>(1) 各章について</p> <p>[事務局]: 補足資料として、A3 の一覧表を配布している。事前配布した資料について、事務局で精査したところ、修正の必要な箇所があり、一覧表にした。各章の説明の前に、修正箇所を説明する。文章の表現や説明文章を加えるかどうかについて検討をお願いしたい。</p> <p>① 第 1 章 計画の基本的な考え方 (市文化振興課より説明)</p> <p>[会 長]: 何かご意見等あればお願いしたい。</p> <p>[委 員]: この冊子は誰がどのように手に取るものか。</p> <p>[事務局]: 計画書は市のホームページに掲載する。ただ製本する印刷物は 100 部のみ印刷するため、主に庁舎内での配布となる。市民には市のホームページでデータを確認いただく形となる。計画書の概要版を作成予定であり、こちらについては広く配布したいと考えている。</p>			

[委員]: 計画書のデザインを含めて、ご意見をいただきたい。特に無いようであれば、第2章 那珂川市の特徴についての説明に移りたい。

② 第2章 那珂川市の特徴 (市文化振興課より説明)

[会長]: 何かご意見等あればお願いしたい。

[委員]: 文化芸術の概要について、今後、那珂川市の文化芸術について、市民、住んでいる人や公的セクターだけではない人などが重要になると思うが、行政が関与している内容に限られている。例えば南畑美術散歩について、文化芸術の概要に入れたほうが良いのではないか。他にも個人の作家等もいる。例えば絵を作家に書いていただいたということについて記載し、個人的に文化芸術活動をされている人がいることが伝わるようにしたほうが良いのではないか。いわゆるクラシカルな文化芸術、フォーマルな文化芸術が強調されているように思える。

[事務局]: 美術散歩については言われる通り、どの場所に入れるかということだが、地域活性化が発端で地域の人々を巻き込んだ文化芸術イベントであり、担当部署が当課ではない。棲み分けとしては、文化芸術分野以外の取り組みとして、今後目指すべき文化芸術のあり方と考えている。担当部署にも内容の確認をさせていただき、このような記載とした。文化芸術活動の例として入れてもおかしくはないが、8ページとの兼ね合いもあり、現在はこちらに掲載している。

様々な個人の作家や活動を入れることで、現在のフォーマルな形だけではないことを伝えることについて、どのような形で載せると良いかであるが、事務局としては、計画書の前段で、多くの分量を取りたくない。どのように入れると良いかについては、象徴的に入れることも一つの方向性だ。どのような形が出来るかは検討したい。

[委員]: いつも難しいことを押し付けてしまっているが、文化芸術はこのようなもの、文化芸術以外はこのようなものとする自体が、文化芸術の可能性を狭めている。美術散歩についても、担当部署が異なり、発端は地域活性化かもしれないが、裂田溝ライトアップもある面では地域活性化だし、ある面では文化芸術だ。その分け方が行政的だ。そうなると文化芸術の広がりが生まれにくい。文化芸術活動を推進していくため、那珂川市にある取り組みとして、様々な人の関わり、多様な人の関わりによって、南畑美術散歩のような取り組みが生まれると思うが、それを「文化芸術以外の取り組み」とすることに違和感がある。様々な領域について、「ある面ではこう」とグラデーションをつけてはどうか。

[委員]: 今の意見については、賛成だ。文化芸術以外とすると、南畑美術散歩に取り組んでいる人に誤解を与えるのではないか。

また、非常に細かい点だが、7ページのミリカローデン那珂川の写真のクレジットについて、「Photographs」とあり、複数ではないので「Photograph」に修正して欲しい。併せて、8ページのところの見出し

に「⇔」があるが、対立しているように見える。

[事務局] : 「⇔」は対立の意図では使っておらず、行ったり来たりのイメージだった。対立として捉えられるなら、修正を考えたい。

[委員] : 9 ページの「高齢者⇔福祉」は、高齢者福祉のことなのか。同様にこども福祉もある。

[委員長] : 2つの領域を横断していることを伝えたいのだと思うが、それが誤解を与えている。表現方法を改めてもらいたい。

[委員] : 10 ページの各種調査の概要を読んだ上で 11 ページを読むと、特徴と調査結果とあるが、1つ目の特徴・調査結果の内容について、調査結果だけではなく、特徴を含める理由はあるのか。読んでみると、自分の中で混乱が生じた。調査内容と主観的な内容が入っており、客観と主観が混ざっているようだ。

9 ページのコラムで、かしわご飯とやまももの下にメッセージの様な文章が入っているが、これは必要なのか。読む人の考え方を狭めてしまう文章になるのではないか。このコラム自体の作者が分からないが、気になる。また、7 ページのピックアップで、「ミリカローデン那珂川は 4 年間かけて大規模な改修を行っています」とあるが、令和 7 年に生まれ変わると考えて良いのか。タイトルに生まれ変わるとあるが、改修後に生まれ変わるということか。分かりづらい。

[事務局] : 9 ページのコラムについて、食の可能性というタイトルにしており、ワークショップや調査結果でも「かしわご飯」が上がった。これが今後どうなるのか、地域活性化につながるのか、1つの郷土料理として受け継がれるのか、イベントで販売されていくのか、色々な可能性があると考えた。また、その 1 つとしてやまももが商品化されているということで、何らかの形で食の可能性を入れ込んだ。この計画はこれから進めていくものであるため、読んだ方へのメッセージとして、食は身の回りにある重要なものとして、色々な形があると考えた。地域活性化は 1 つの例だが、そのような展開につながるかもしれないという思いもあり、食の可能性のあることを伝えてはどうかと考え、最後に付け加えた。また、ミリカローデン那珂川については、リニューアルは 4 年間、令和 6 年度で終わるが、毎年違った形に変わっている。令和 5 年度は図書館工事をしているが、段々と生まれ変わっているミリカローデン那珂川を表現したい。リニューアル自体は 4 年間と決まっているが、色々な形で市民に使ってもらうため、最後の文章を付け加えた。

[委員] : 調査結果が書かれていると思って読むと、施設数等の事実も書かれている。分けたほうが分かりやすいのかわからないが、読みにくかった。

[事務局] : 第 2 章の前段で書かれている内容や、調査結果の両方を踏まえ、このような形とした。タイトルの表現や、箇条書きの順番で何とかなるかもしれない。

[委員] : 10 ページのヒアリング調査結果について、調査対象のうち「文化に直

接関わりがない団体」とあるが、表現が直接的だ。

[委員]：文化芸術と関わりのない団体は無く、あらゆる団体は文化芸術と関わりがあるため、表現を改めて欲しい。また、30 ページでも「文化芸術以外の団体」と書いてあり、表現を変えてはどうか。

[委員]：食のコラムについて、地域活性化を意識して書かれているように思う。そこに対する思いが踏み込まれた姿勢に違和感を抱くポイントなのだろう。最後の問いかけについて、思わせぶりの語りかけであり、まだ見ぬ那珂川の食とあるが、文化は既にそこにあるものであり、たくさんの人を惹きつけるとあるが、惹きつけなくても文化として価値がある。たくさんの人を惹きつけることが可能性であるように感じる。身近な食文化を将来につなげていくとか、普段の暮らしで文化が育まれているとか、そういうものではないか。特に食は身近にあるものであり、食が広まる側面もあるが、これまでずっと身近に存在していることも価値があるものだ。

[会長]：何かご意見等あればお願いしたい。特に無いようであれば、第3章 計画の構成についての説明に移りたい。

③第3章 計画の構成（市文化振興課より説明）

[会長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委員]：13 ページの「文化芸術で〇〇しよう」は、人によって当てはまるものが違うということか。イラストを見ると、色々な人がいて、楽しみ方が異なると思うが、例えばどういうものが入るのか。自分の中でも今一つ入れられず、こういう人はこういう言葉が入ると思いつかなかった。その後の内容を見ると、〇〇という表現が続くと思ったが、文化芸術「で」、という表現が続いていた。

[事務局]：〇〇には色々なことが入ると考えている。元々是对話をする人、文化芸術をひとりで鑑賞する人、実践する人もいるだろうが、文化芸術をきっかけに、これまで関わりがなかった人との関係ができることもある。例としては全てではないが、色々な立場の人によって、入れるものも変わるだろう。市の計画であり、方向性をしっかり示すことも重要と考えたが、これまでの議論や、文化芸術の可能性を型にはめてしまうことも踏まえると、各自が見つけてもらうことのほうが良いと考えた。また、基本方針については、委員がおっしゃるように、そうした要素があり、伝わりにくいところがありそうだ。理念を達成するための方針として3つ掲げており、ひろげる、ささえる、つなぐという3つを示した。ただ、〇〇とのつながりについては、表現の工夫が必要かもしれない。

[委員]：那珂川の文化芸術で〇〇しようというのが難しい。特に「那珂川の」とついているので尚更だ。標語的に難しいところがある。

[委員]：文章が異なるのではないか。文化芸術の分野がすべての人のよりどころに違和感がある。言葉を置き換えて考えると、音楽をみんなのよりどころに、農業をみんなのよりどころに、というのはねじれていないか。「よりどころ」という言葉が違うのか。

[委員]：文化芸術は分野ではなく、そういうもの。色々なものが文化芸術に関わっている。□□分野、△△分野とあるが、その根底に文化芸術があるのであれば、この表現でも伝わるのではないか。今は文化芸術を何かの分野、例えばこれは文化芸術、これは文化芸術ではないとするのではなく、どれも文化芸術であり、それが暮らしを支えているということを表現できればと思う。〇〇に入れる言葉がイメージ出来ないなら、この表現は意味がない。修正するのであれば、「那珂川で〇〇しよう」とか、「〇〇できるまち那珂川」といったように、文化芸術でこういうことができる、という可能性を感じられると良い。作品を発表しようなど、〇〇に言葉が入り、ストーリーを感じられる文章がよい。

計画書はフォーマルなものになるため、「法によると」の続きの表現が抜粋した内容になっている。正確な文言が必要である。また、「よりどころ」という言葉には抵抗がある。「国民共通のよりどころとなり」とあるが、よりどころという言葉に込められた「日本の伝統を大事にすることによりどころがある」という表現である。ここではそういう意味合いでよりどころが使われているが、もっと色々なよりどころの意味合いがあっても良い。一人ぼっちの人がミリカに行ったら誰かに会えるなど、もっと先を見てはどうか。この表現を抜粋すると、日本の伝統文化を大事にすることがより

どころだと思えてしまう。よりどころという言葉自体は悪く思わないが、気になるところだ。

[委員]：みんなのよりどころ、という表現がちぐはぐに感じた。文化芸術を「みんなの」とまとめてしまってよいのか。

[委員]：「みんなの」が気になるのであれば、「一人一人の」としてはどうか。「文化芸術を一人一人のよりどころ」としても良い。

[委員]：そのほうが文章の意図に合う。

[事務局]：「みんなの」という表現を使ったのは、一人一人が思う文化芸術を表現したかった。

[委員]：「みんなの」と「一人一人の」では意味合いが異なる。皆さんの意見を聞くと、「一人一人の」ほうが良い。「みんなの」というのは国家主義的、これが正しい「みんなの」ですと言われているように思う。“ ”も、「よりどころ」だけについても良い。文化芸術は一人一人の“よりどころ”としても良い。

[委員]：文化芸術を手段にしても良い。

[委員]：両方あるのではないか。文化芸術を生きがいに行っている人もいるし、ミリカローデンのロビーが居場所になる人もいる。狭い範囲の文化芸術も

あるし、文化芸術が生まれる場、モノやコトとしての文化芸術もあるだろう。

[委員]：色々なものがある根底に文化芸術があるというのは、すんなり入ってきた。そういう意味で良いのではないか。「は」のほうが良いのか。「文化芸術をみんなのよりどころにしないといけない」と思ってしまう。

[会長]：訂正したのはどういう意図か。

[事務局]：文化芸術をみんなのよりどころに「しよう」とか「つくろう」という話につながると思って訂正したが、この表現だと宙ぶらりに見える。

[委員]：上の文章を変えるのではなく、下の文章を変えてはどうか。

[委員]：文化芸術はみんなのよりどころは良さそうだが、そのために市は何をしてくれるのか、市の主体性は見えづらい。一方で、一人一人のよりどころを市がつくるのも疑問に思う。上にある言葉は、目当てやスローガンであり、下にある言葉は具体的な行動目標になる可能性を秘めている。または逆転しても良い。

[委員]：〇〇については、ここに言葉が入ることをイメージしたほうが良い。例えば、「〇〇できるまち那珂川を目指して」とか、「那珂川で〇〇しよう」というものだ。全体では、「文化芸術を一人一人のよりどころに、〇〇できるまち・那珂川」というものも考えられる。

[委員]：「文化芸術をみんなのよりどころに、〇〇できるまち・那珂川」でも良さそうだ。

[委員]：〇〇できるまちというのも抽象的だ。上の文章で〇〇を具体的にイメージできるようにする必要がある。作品を発表できる、移住できる、移住したい気持ちの根底には、那珂川の文化的魅力を感じるという背景がある。可能性を感じられるところに住みたくなるなどを想像できるとよい。

[委員]：基本方針との整合性が大事だ。〇〇に何が入るのかなと思いつつ、ページをめくると、那珂川の文化芸術を広げようなど、そういう言葉が入るのかなと最初は思ったが、どうやらそういうことではないようだ。〇〇でないといけないのか、という気持ちになる。

[会長]：〇〇となっていると漢字2文字を入れたくなる。

[委員]：「日常の何気ないモノ・コトが文化芸術と～」とあるが、この表現はとても大事だ。特定の人たちのものだけではない。だからこそよりどころなのだと思う。みんなの根本に文化芸術があるということを伝えるために、「は」のほうが良いのではないか。「を」や「に」は、何かさせられるように思う。文章では、誰か特定のものではないとある。

[委員]：住んでいる人にはそうかもしれないが、この計画書は那珂川市がこういうことをしていこうというものである。みんなによりどころにして欲しいというのではなく、行政としてこうしていくということが表現されている。

[委員]：文化芸術が一人一人のよりどころになるまち那珂川であり、環境整備

をすることで結果的にそうなるものである。強制的によりどころにしたい訳ではない。

[会 長]：煮詰まってきたところだが、方針としては、「は」や「に」の使い方、「みんなに」を「一人一人に」に変更する、タイトルとサブタイトルの逆転があげられる。

[委 員]：14 ページについて、つなぐの基本施策 1 が「発信」になっている。ひろげるでも「発信」という言葉を使っている。つなぐの「発信」の内容はひろげるに入れるものではないか、ひろげるにある社会包摂の新規事業案はつなぐではないかと感じている。「ひろげる」や「つなぐ」という言葉を見たときに、直感的に感じる内容で整理したほうが良いのではないか。

[会 長]：何かご意見等あればお願いしたい。特に無いようであれば、第 4 章 施策の展開についての説明に移りたい。

④第 4 章 施策の展開（市文化振興課より説明）

[会 長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委 員]：15 ページの「ひろげる」の新規事業案で、1 行目に「高齢者施設等の～」は入所に限らなくても良い。利用している人としてはどうか。17 ページの「ささえる」の基本施策 1 の既存事業について、2 つ目と 3 つ目の違いがよく分からない。2 つ目は専門人材、3 つ目はボランティアとあるが、ボランティアはどういう人か。2 つ目に該当する人はミリカルリーダーなのか。また、この時代で「ボランティアを育成する」とはどういうことなのか。また、19 ページについて、「文化芸術以外の分野」とは言わずに、「文化芸術と関連する分野」等の言い回しにしてはどうか。

[事務局]：17 ページについて、2 つ目と 3 つ目の違いは、イメージではボランティアはイベントでのお手伝いなど、自分では文化芸術活動を実践する訳ではないが、関わりたい人にも入っていただく。そのため、ボランティアという言葉を使っている。

15 ページの入所という表現は改める。また、19 ページは、表現の仕方として、「文化芸術以外」という表現がまずいというのは理解した。その場合、「関連した分野」のほうが良いのか。

[委 員]：文化芸術基本法では「各関連分野との有機的な連携」とあり、言い回しは任せる。

[委 員]：ボランティアは既存事業だが、既に行っているのか。

[事務局]：ミリカローデン那珂川ではミリカサポーターというボランティアが活躍されている。

[委 員]：各種調査結果のアンケートでも、活動をされているか、ボランティアをされているか、というアンケート項目があった。

- [委員]：文化芸術事業のボランティアに関わる、としてはどうか。
- [委員]：「文化芸術以外の分野」は、「関連する分野」という表記が良い。
基本施策の1で、「発信」とあるため、「ひろげる」ではないか。それよりも地域文化の継承ということではないか。継承していくために、発信をしていくこともあるということだろう。施策の名称としては、継承などのほうが良さそうだ。
- [会長]：「ひろげる」に、「文化芸術をつなぐ仕組み」とあるが、ここで「つなぐ」を入れると混乱する。「つなぐ」ではない表現を使い、混在させないほうが良い。
- [委員]：17 ページの文化芸術活動環境の充実に「施設利用について相談できる場所の設置」とあるが、施設利用しか相談できないのか。新規事業案で市内の文化芸術団体の情報の収集と発信とあり、相談できる人はもっと広く相談できると思ったが、施設利用だけということなのか。情報を収集するなら、施設利用以外の情報も得られると、色々な活動もつながっていくのではないか。施設利用に限るのはもったいない。
また、18 ページの地域の魅力的な文化の発信について、歴史分野が多いように思った。食文化が出てきたときに、これも地域の魅力なのだとすれば、そういうことも入ると良いが、今は歴史に寄っており、もったいない。今から変えることができるか分からないが、このあたりが広がると魅力的になるのではないか。
- [事務局]：16 ページの施設利用の相談について、委員のご意見はワークショップでも出ている。将来的には目指したいが、市としては出来ることから記載している。5年後に委員が言われたことも「出来ます」と言えるようにしたい。収集した情報については伝えられるようにしたい。
既存事業が多く、内容は歴史のことが多い。歴史の部分に特化している。食を例に挙げていただいたが、施設利用とも重なるが、表現出来るなら入れたい。第5章にもつながるが、新規事業について、含みを持たせながらも、やれることをやるようにしなければならない。計画を進めていくために、今のような表現になっている。将来的にできるようにしていきたいと考えている。
- [委員]：ワークショップでは、色々な方が参加していた。歴史中心でも良いが、そこからひろがるという意見があった。そのような表現が入っていると、ひろがるのではないか。
- [会長]：他に何かご意見等あればお願いしたい。特に無いようであれば、第5章計画の推進についての説明に移りたい。

⑤第5章 計画の推進（市文化振興課より説明）

[会長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委員]：21 ページからのスケジュールについて、新規事業がしっかり埋まって

いるところと少ないところがあり、温度差がある。22 ページの「つなぐ」では項目が1つしかないが、18 ページでは講座の実施とか、書けることがあるのではないかと。1つしかないのはもったいない。

また、21 ページの「ひろげる」の基本施策2に「つなぐ」が出てきており、表現を変更してはどうか。

[事務局]: 1つ目に話されたことは、事業欄にもう少し入れてはどうかということか。既存事業は既に行っていて、今後も取り組むものだが、今回は新規事業をピックアップしている。このため、事業のバランスはあるが、施策によっては新規事業が1つしかないものもあり、掲載している事業に差が出ている。「つなぐ」の表現については、誤解がないようにしたい。

[委員]: 20 ページからミリカローデン那珂川のことが記載されているが、役割の最初の文章は「つながり」が分からない。「多様な文化芸術の在り方を追求し、利用者や市民へ提案すること」とあるが、提案とは何のことか。また、3つ目の文章について、生まれていく仕組みとはどういうことか。分かりづらい。修正案の文章について、「若い世代の自由なアイデアを施設運営にも活用していく」とあるが、施設運用に活用と言われると、どこまでを指しているのか。理事に子どもを入れて下さいとも読み取れる。説明が抜けているように見える。22 ページについて、目標指標が書かれているが、ミリカの数字はどこから取られているのか。ミリカは色々な報告をしているため、数字の根拠を教えて欲しい。

また、推進体制について、こういう計画を策定する際に、市の責務を記載することが重要なのではないかと。この計画を策定することで、記載が無くても市の責務はあるということなのか、それとも、計画書の中に明記する必要があるのではないかと。

[事務局]: 色々な形の文化芸術の在り方をどうすべきかという表現は適切ではないかもしれないが、色々な文化芸術の在り方について、ミリカローデン那珂川を拠点として追求したり、自然に出来上がるもの、後押しするものもあると思うが、市民や利用者により自主事業等を通して、このような取り組みをしますと、旗を振ってもらい、提案をするなど、色々な人に文化芸術の可能性を示す様な役割を担っていただくと考えている。

また、3つ目の文章は社会包摂の考え方で入れている。ミリカローデン那珂川自体が居場所をつくるという流れを、リニューアルを契機につくっている。色々な人が利用していくことが出てくる。施設利用を介して、色々な人の居場所が出来てくるということで、一人一人が尊重されるという解釈だ。文章表現として伝わりにくいのであれば、改めたい。

[委員]: 20 ページのミリカの役割1つ目は「追及して、利用者や市民への提案を」がよいのではないかと。3つ目の部分は事業や企画の参画を後押しするという言葉になるのか。

[事務局]: 後押しをするというのは、あくまで裏方という印象を持っているため、違うのではないかと。若者たちが持っている柔軟なアイデアも活用して

いく、これまでの利用者だけではなく、若い世代も色々なアイデアを持っているだろうから、施設運用に活かしてもらいたいと思っている。施設運用という表現が、施設管理と感じられるのか。

[委員]：そこまでこだわりがある訳ではないが、そのあたりの表現は相談できるのか。

[事務局]：相談したい。市の責務について、市としてはこういう方向性で施策を展開し、市自体が取り組むものもあれば、連携して取り組む施策もあり、それを通じて理念の達成を目指す。主役は市民だが、市としてこれをしていくというのは全体に入れているつもりである。また、ミリカローデン那珂川は拠点であり、市と管理運営される財団で担っていくものであり、別立てで、見た人が分かるように抜き出して記載した。

[委員]：責務という言い方は、条例等の上位のもので記載することが多いのではないか。計画は市が主語として記載していることが自明ではないか。推進体制についても、本市は、と明記されている。

[委員]：第3章、第4章、第5章が1つのストーリーだ。根幹の理念が揺れているが、～～しようとなるのであれば、それを実現するために「ひろげる」、「ささえる」、「つなぐ」がある。ミリカローデン那珂川に求められる役割について、もっと色々な役割があるのに、なぜこの役割が出てくるのか。この計画の中では、よりどころであること、また、「ひろげる」、「ささえる」、「つなぐ」について、これを手がかりにこういう役割があるのではないか。明言しなくても、理念を実現するためにはミリカにそういう役割があると理解できる。

また、推進スケジュールについては、どれも同じであり、事業は全て新規事業を記載していた。つまり新規事業をどう進めるかを1つ1つ記載しているが、新規事業の進め方を1つ書けば良い。思いは分かるが、新規事業はどれも同じスケジュールになっている。ただのスケジュールとするのではなく、推進するための計画のポイントとして、例えば、こども基本法では、こどもの声を聞かなければならないが、この計画プロセスにいかにか市民が参画するのか、具体的な連携のポイントなど、そういうことにページを割いたほうが良いのではないか。スケジュールに1ページ半取っているが、書いている内容が同じだ。あまりにもサラッとすぎている、情報が拡散している。どう推進していくかが強く感じられない。

[委員]：新規事業スケジュールが分かりづらい。文中に新規事業とあるが、市民は読まないだろう。タイトルに新規事業スケジュールとする、表の事業のところを新規事業と記載するなどしたほうが、市民にも親切だ。

[事務局]：新規事業は調査からはじめ、前倒しできるものは前倒ししたいが、結果的に同じスケジュールになっている。ハードルが高いもの、実施に向けて動き出せるものがあるだろうが、中身に変化、強弱をつけられることもあるだろう。本日の資料に反映できていないが、どの施策はどう進め

るかが分かるように、精査・検討したい。ただ、あまり変化がないのであれば、考え方やポイントに重きを置くような見せ方もあるだろう。どのような形にするのか、検討したい。

[委 員]：この委員会は、検証委員会になるのか。

[事務局]：最後に条例をつけているが、施策の効果・検証にかかることも記載しており、来年度以降、策定時のように頻繁ではないが、お集まりいただきたい。

[委 員]：そのスケジュールが入っていない。しっかり計画を見直し、検証していくというプロセスがあると良い。計画は何をもって検証するのか。

[事務局]：スケジュールがわかるように文章中に記載する。検証は、施策の進捗管理を行っていく。

[会 長]：他に何かご意見等あればお願いしたい。特に無いようであれば、3. その他に移りたい。

3. その他

今後の進め方（株式会社地域計画建築研究所より説明）

別添説明資料2のとおり

[会 長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委 員]：本日決まらなかったところがあるが、今後はどのような進め方になるのか。特に基本理念についてお聞かせ願いたい。

[事務局]：パブリックコメントは予定通りこのまま進めたい。また、計画策定も今年度中に確定したい。このため、パブリックコメントのスケジュールは変更が難しい。本日いただいた意見について、検討すべきものは至急確認し、委員の皆さまにもご提示したい。

パブリックコメントは、本日のようにデザインされたものを閲覧いただきたいため、デザイン化に数日かかる。このため、皆さまに提示するものについては、簡単に確認出来る方法等を検討したい。直接お渡しできない場合は例えばメールでの確認としたい。

[委 員]：3月の審議会の日程はいつ決まるか。

[事務局]：本日この場で決めたい。3月13日（水）19時からでしょうか。

[委 員]：了承。

[事務局]：開催場所は確認の上、連絡する。

[会 長]：以上をもって第8回那珂川市文化芸術推進審議会を閉会する。